

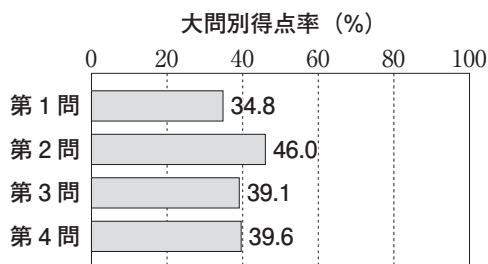
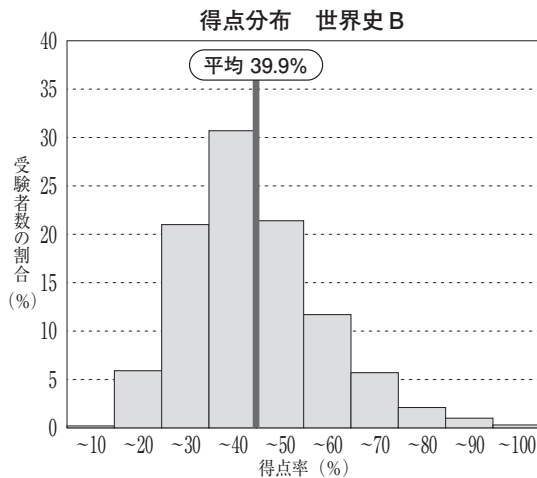
世界史B

前近代史から安定した基礎力を鍛えていこう。

I. 全体講評

今回の平均点は39.9点で、第1回の模試としては例年通りの出来と言える。今回は前近代の問題が多く、解きやすかったのではないかと推測する。小問の正答率のベスト9までが(19, 10, 16, 25, 18, 13, 21, 33, 22)、すべて前近代史の設問であった。前近代史に一定の手応えが感じられるほか、近現代史でも悪くない正答率を得ている設問もある。難易度の影響もあるが、これらを足場として今後の知識の拡大と安定した学力の形成に努めていこう。

例年の傾向であるが、時期指定問題や年代整序6択問題、また現代史などは受験者の最も苦手とする出題形式や分野であり、今回の結果にもそれが明確に表れている。早い段階からこれへの対策を含んだ学習計画を立て、着実にこなしていくことにもよく留意してほしい。



II. 大問別分析

第1問 世界史上の人物の事績とその評価

世界史上の歴史的人物の事績を押さえよう。

第1問の得点率は34.8%と大問4問のうちで最も低かった。この原因は、全問中ワースト1位だったインドシナ戦争におけるディエンビエンフー陥落とスーダンにおけるマフディー運動についてのab正誤の組み合わせ問題の6があったからである。6の正答率は9.5%でずば抜けて低かった。エジプトのウラービー運動と勘違いした受験者が多かったようである。近現代史である蒸気機関車についての7の45.3%とプロレタリア文化大革命の年表補充問題9の42.2%はこの時期としては健闘した結果であった。また香港に関する誤文選択8の30.2%は正答率が一見低そうだが、近現代史であることと誤文選択の問題であったということから健闘した結果だった。一方、教会大分裂(大シスマ)を終わらせたコンスタンツ公会議の時期を問う1の25.5%、ラクスマンを日本に派遣したロシア皇帝を問う3の31.9%は、ともに基礎的な前近代史の設問と考えるので残念な結果であった。同じようにヨーロッパ中世文化についての2の36.9%も基本的事項と考えるので残念な結果であった。ドンソン文化を問う4の38.1%、アクバルを問う5の44.3%は现阶段ではこんなものであろうと考える。

第2問 世界史上の歴史書や歴史学

基本的な事件の年号、基本的な場所の位置をしっかりと確認しよう。

第2問の得点率は46.0%と大問の中で最も高かった。この理由は、ほとんどの問題が前近代の問題であったからであろう。10は第3問の19と並んで正答率が55.6%と全問中最も高かった。トゥグリル=バクを問う10の55.6%、ルターを問う16の54.7%、ボッカチオの著作を問う18の50.5%は、これらが基本的な問題であることの証左ではある。しかし、この段階でこれくらい出来ていることは、今後により高い希望を抱かせる。王安石について問う

[13]の48.9%も同様である。一方、『四行詩集（ルバイヤート）』の作者を問う[12]の36.6%とアルザス・ロレーヌの場所を問う[17]の36.7%はともに、基本的事項であるので残念な結果であった。特に、戦争の原因となるアルザス・ロレーヌのような場所は、同じように係争地であるシュレジェンやカシミールなどと同じく位置をおさえる必要がある。ローマ帝国とムラービト朝について問う[11]の41.7%、司馬遷の活動した時期を問う[14]の44.2%、授時暦とユリウス暦を問う[15]の40.8%、は第1回の結果としては、まずまずであると考ええる。

第3問 人類と稲・麦・ジャガイモ

正文選択, 誤文選択, ab正誤組み合わせ, 年代整序など出題形式を把握しよう。

この大問の得点率は全問平均とあまり変わらない39.1%であった。全問中最高であったクシャーナ朝の都を問う[19]の55.6%の結果は学習の成果と考える。またインカ帝国とヨーゼフ2世を問う[25]の51.4%、カンボジア史の設問[21]の47.7%は中心的ではない地域であることから考えるといい結果である。しかし、カノッサ事件、ヤゲウォ（ヤゲロー）朝成立、オスマン帝国のコンスタンティノープル攻略の年代整序の問題[24]の22.9%は、基本事項の年代整序問題であることから不満が残る。これくらいの事項の年号は正確に把握する必要がある。サンシー宮殿について問う[27]の25.6%も不十分な結果である。プロイセン王国の君主がハプスブルク家として選択肢①を選んだ受験者が37.2%もいたのには驚いた。明の土地台帳を賦役黄冊とする誤文選択の[20]の31.1%、ノルマン人のシチリア王国建国を問う[23]の38.0%はともに残念な結果であった。マツイーニとガリバルディを混同して選択肢③を選んだ受験者が27.8%いた。ウルクの名とその場所を問う[22]の46.0%、古代アメリカ文明の設問[26]の34.5%は健闘の結果と考える。

第4問 世界史上の国家

現在の世界各国の位置, 国の状況, 主な川を確認しておこう。

第4問の得点率は39.6%と全問題平均とほとんど変わらないものだった。しかし第3問と違って、最高が46.1%、最低が25.9%とあまり差がでない結果であった。最低となったのはユーゴスラヴィア

現代史とインドナシア現代史の[35]であった。「イスラーム同盟が、インドネシアの民族運動を主導した」という内容を誤文にした受験者が50%近くいた。これはイスラームに関するものは、西アジアにあるものと思いこんでいる受験者が多い結果である。インドネシアが世界最大のイスラーム教徒の人口を有する国であることを知っていれば、このような間違いはしないはずである。またダレイオス1世を問う[28]は37.0%であった。ここでは、コンスタンティヌス帝とテオドシウス帝を混同して①を選んだ受験者が36.4%いた。洛陽を問う[29]は39.5%であったが、ここでもガンジス川とインダス川を混同して③を選んだ受験者が33.1%いた。ファルツ戦争, 七年戦争, 第3回ポーランド分割の年代整序の[31]の37.8%も不満が残る。基本的事項の年号は暗記する必要がある。「海の道」に関する設問[30]の40.7%、重装歩兵とイエニチェリを問う[32]の41.2%、フィリップ4世を問う[33]の46.1%、アメリカ独立宣言を問う[34]の40.7%、ホメイニとサダム＝フセインを問う[36]の43.7%は、健闘の結果であろう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆基本を確実に身につけよう。

センター試験では様々なテーマのリード文にもとづいて設問が出題されるが、各小問自体は教科書レベルの基本的知識で十分に対応できる。従って幅広い基礎力の養成がポイントとなる。その際に地図や図版などを合わせて参照し、立体的な学習に努めることを必ず実践してほしい。また、世界史は現代の世界に直結している。毎日の海外のニュースに関心を持って見聞きしよう。